

物流危機が切り拓く物流の未来

令和元年10月21日

第2回通運フォーラム

株式会社湯浅コンサルティング

代表取締役社長 湯浅和夫

物流危機

= ドライバー不足に起因する「運べなくなる危機」

荷主にとって

深刻な危機。
運べなければ売上にならないので、かつて経験したことのない危機と言ってよい。

トラック運送事業者
にとって

ドライバーの確保が困難になるということで、事業継続の危機でもある。

これまでの物流

- 「トラックはいくらでも使える、トラック運賃なんて安いもんだ」という前提で物流が行われていた。
- ⇒ 短納期、多頻度少量の物流が行われたり、ドライバーを長時間待機させたり、ドライバーに作業をやらせたりしても平気だった。

ドライバー不足
事態は一変

これからの物流

- 「トラックが足りない、運賃は上昇し続ける」という前提に物流を行う時代になった。
- ⇒ これまでの延長線上にいつづけると、企業の物流は破綻する。また、物流事業者は事業継続性に危険信号が灯る。

荷主にとって

- 「1社単独で物流をやる時代ではない」
- 縦・横の連携で物流を再構築する

物流事業者にとって

- 「ドライバーを確保できるかどうか企業が成否を分ける」
- ドライバーの賃金上昇、働き方改革の推進が最優先課題

- 物流危機は好機
- 本来あるべき姿を目指す取り組み
- わが国物流史上初めての取り組み